

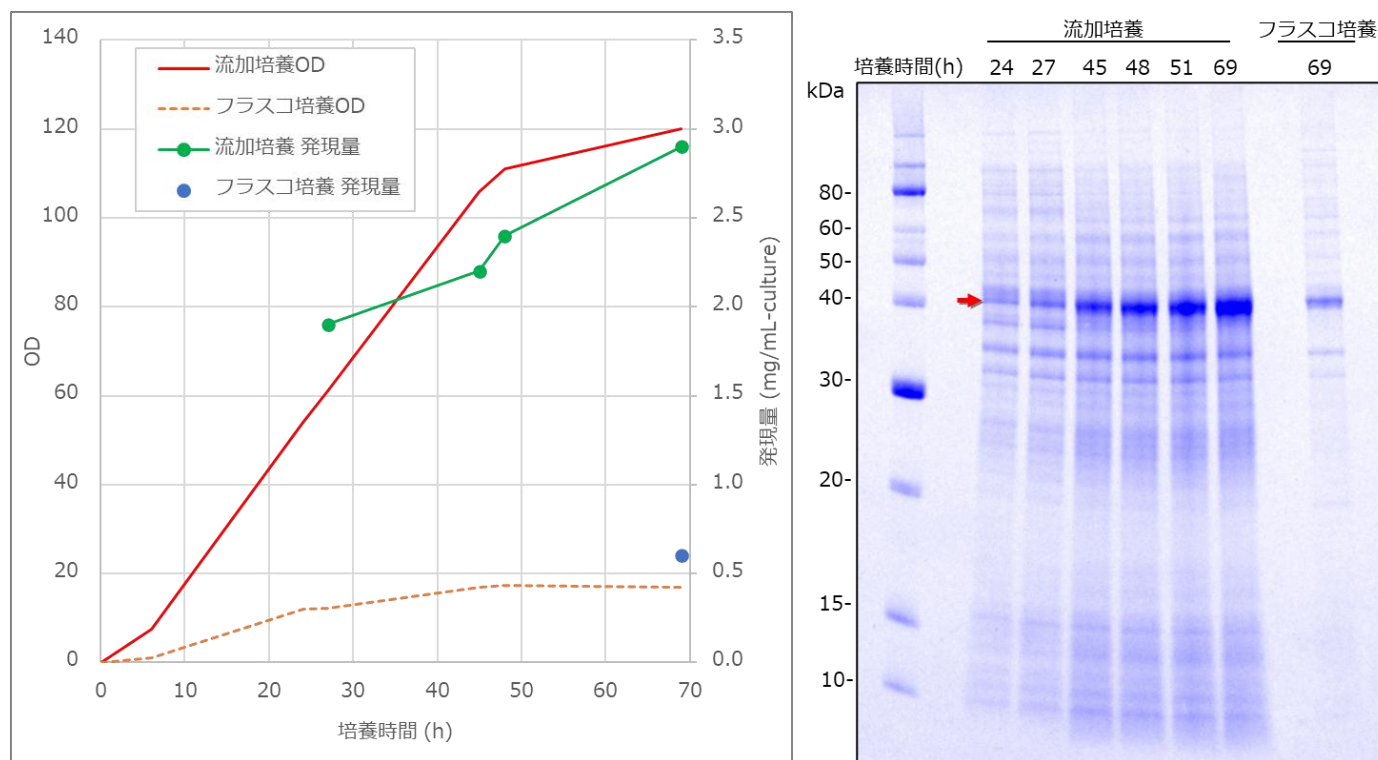
＜大腸菌流加培養 2＞

大腸菌によるタンパク質生産に関して、通常のフラスコ培養とジャーファーマンターによる流加培養で生産性を比較しました（Application Data 【9】で示した流加培養条件を見直したものととなります）。

【試験；タンパク質発現試験】

あるタンパク質をコードする発現ベクターを大腸菌株に導入、ジャーファーマンターを用いた流加培養でタンパク質発現試験を行いました。同時に TB 培地でフラスコ培養を行い、流加培養の場合と培養液の OD、目的タンパク質の発現量を比較しました。

その結果、流加培養では OD 値が 120 と、以前の流加培養条件（OD 値；約 50）と比べ、2 倍以上の値を達成することができました。目的タンパク質（右図→）の発現量も OD 値の増加に応じて上昇し、約 3mg/mL-culture と良好な結果となっています。これらの結果から、本培養条件は、組換えタンパク質の生産において、より適した培養条件であると言えます。



各培養方法による OD 値とタンパク質発現量の推移

タンパク質受託発現サービス情報は[こちら](https://www.proteinexpress.co.jp)